

## 「スター誕生」

この物語は、アメリカのテネシー州、ナッシュビルの町のゴミ箱の中で生まれた、あるホームレス犬が、音楽とそれを愛するミュージシャン達との交流を通して、生きる喜びを見出していった物語です。後に、「Tidbit」(ティビット)と名づけられるこの犬は、毎日食べるためには、子犬の頃から敵と闘う事も避けられないような、厳しい、悲惨な生活をしていました。毎日、レストランの残飯をあさり、路上で寝起きするような夢も希望もない生活でした。

ある日、彼はいつものようにゴミ箱をあさって、食べ物を探していると、どこからか素敵な音楽が聞こえてきました。耳を凝らして聞き入ってみると、それはいくつかの弦楽器がリズミカルに奏でられる素敵な音楽でした。聴いていると不思議なほど陽気な気分になり、優しくて、温かい家庭の中にいるようでした。彼はその場所へ近寄り、隅っこに座りながら音楽に聴き入ります。ミュージシャンの人たちは、皆とても優しくて、生活に疲れて薄汚れた彼をみても、他の人たちのように、蹴ったり怒鳴ったりなどしません。彼の姿に気がつきながらも微笑みながら、歌っています。これまでのかたくなな気持ちが、次第に溶けていくような心地よい安らぎを感じていました。

彼は毎日その場所へ行き、音楽を聴くようになりました。トカゲの皮のブーツをはき、煌びやかな衣装を身につけた人たちは、本当にカッコよくて親切でした。あるとき、その中の一人が彼のために毛布を持ってきてくれたり、ポークチョップを食べさせてくれたり、とても可愛がってくれました。又、あるときは、青いブーツを履いてキラキラのスパンコールをつけた衣装の、綺麗なおねえさんが、一切れのステーキをナプキンに包んで持ってきてくれたときには嬉しくて嬉しくて、もう天にも昇るような気分になりました。それどころか、頭をなでてくれて「ここへいらっしやい ティビット」と自分呼び寄せてくれたのです。このときに、生まれて初めて名前をつけてもらったのです。

名前がついたことの喜び、ご主人が出来たことの喜び、信じられないような幸せでした。それから毎晩そこへ行き、毛布の上に座りながら聴く音楽は、彼を本当に幸せな気分にしてくれました。これまでの辛かった何もかもを忘れることができたのです。

ギターやバンジョーやヴァイオリン、それに加わる歌声。そして、それらが作り出す絶妙なハーモニーに酔いしれ、自然に体が動き出し、尻尾もブンブンとしてきて、ついには鼻先をあげて「ワオーーン」と声が出てしまうのです。まるでティビットの自由への解放の叫びのように、喉の奥から搾り出されたような声でした。彼は、この場所で歌を歌うことを学びました。言葉を交わさなくても音楽が持つ不思議な力を、彼は少しずつ知っていったのです。優しい人たちと一緒に聴く音楽、歌声、暖かい毛布…まさに至福の時でした。

そんなある日、見慣れない顔の男性がやってきました。その人は、黒ずくめの衣装をまとって「汽車」や「囚人」や「Mama」という歌を歌いましたが、これまでに聴いたこともないような低い素敵な声にうっとりしないではいられませんでした。その人の声の中には、これまでのティビットの生活の中で感じた悲しみや痛みのようなものがあつたのです。又もや体が動き出し尻尾ブンブンになり、鼻先があがって「ワ

オーオーン」と歌ってしまいました。みんなは笑っていましたが、ジョニーさんというこの人は真剣な顔をして「一緒に歌おうぜ」とティビットをステージに連れて行きました。

真っ赤なバンダナを首に巻いてもらい、ジョニーさんの横に座ると、目の前には沢山のお客さんがこっちを見えています。ガチガチに緊張してしまって、あわやお漏らしをしそうになるほどでした。でも、やがて音楽が始まるとそんなことも忘れたかのようにノリノリになり、いつものように浮き浮きで「ワオーオーン」です。彼は、もはや観衆もカメラのフラッシュも何も気になりませんでした。ただ夢中でジョニーさんと一緒に歌いました。嬉しくて、幸せで「ああ 僕は今家庭の中にいるんだ」と思いながら歌いました。音楽が終わった時、あたりは静まり返ってしまい、シーンとしています。そしてその後、そんな静けさを打ち破るような拍手喝采の嵐です。

ティビットの生活は、この日から一変しました。ついに彼は希望を見つけたのです。もうあの寂しげなホームレス犬ではありません。毎日バスに乗って、ジョニーさんの横に座り、首には真っ赤なバンダナをしてもらい、演奏旅行に出かけます。

もしかすると、ジョニーさんは自分の生い立ちをティビットの中に重ねたのかも知れません。ジョニーさんとティビットはお互いに幸せを呼び合ったのかもしれない。純粹で心優しい人たちに愛されながら、ティビットがその後も幸せな一生を全うしたに違いない。と信じ、エールを送りたくなる心温まる物語でした。